



校内、生徒会室前には体育祭のときの忘れ物が置いてありました。体育祭のあの一日の名残です。

体育祭は強烈な印象を残しながらも急速に過去のものとなっていきます。前回に続き、玉名高校・玉名高校附属中学校体育祭の生徒の思い・感想をご紹介します。



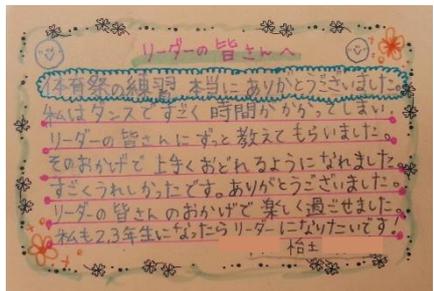
私は、体育祭で自分の仲間と協力して頑張ることを学びました。初めての体育祭で、着替え、移動、準備と忙しく、放課後練習にはもう疲れてしまっていて、少しくらいならだらしでもいいかなと思ってしまう時も何回もありました。「私くらいなら」と思う自分がいました。でも、もっと良い演技をつくろうと引っぱってくれるリーダーの皆さんや、真剣に練習をする同級生を見て、毎回それに刺激されて頑張ろうと思えました。仲間と刺激し合って成長するとは、このことだなと実感できました。

本番では、のどが痛くて声が出にくかったけど、競技も応援も、ハプニングもあったが、精いっぱい頑張れました。ダンスも、ちょっとやりすぎたかなと思うくらい、思い切りやれて楽しかったです。結果は3位だったけど、輝団になって良かったと思いました。

(小山さん)



ぼくは、以前、兄が玉名高校附属中学校の生徒で、玉名高校の体育祭を見ていたのですが、5月13日に体育祭を経験して、あらためて、やはり、玉高の体育祭はすごいなと思いました。特に、どの団もダンスや演舞の時は、とてもはりきっていて、みんな良くできているなと思いました。ぼくは、この体育祭を通して、何にでも団結力が必要なことを学びました。たとえば、リレーではバトンをわたすとき、落とさないようにすることが団結力につながり、それが優勝につながると思ったからです。だから、ぼくは、これから団結力を大切にしていきたいです。(三牧くん)



私は、今回の第71回体育祭で、紅(あか)・輝(き)・蒼(あお)の中で一番難しいと言われている蒼団のダンスに挑戦しました。団ごとで初めての練習の日、その難しいダンスを目の前にした私は「こんな難しいのできるかな」という不安と、「かっこいいな」という憧れの気持ちでいっぱいでした。

応援団に人たちは、時には厳しく、真剣に教えてくれました。本番では、練習したことを生かし、自信を持って踊りました。そして、優勝することができました。来年は3年生になり、下級生を引っ張る立場になるので、今年の先輩方のような頼もしい自分になれるといいなと思います。

(馬淵さん)

学校では、「体育祭後」という言葉自体が独自の意味を持っています。それほど、体育祭は大きな存在です。体育祭後、教室を見てみると、中学3年のクラスに、中学1年生からメッセージが届けられていました。また、教室に置いてある植物にも改めて気づかされました。

体育祭の余韻の残る中、感謝の気持ちと一緒に、上手に切り替えていく欲しいという思いが行き来していました。



2018.5.18 副校長 山部